

研究員紹介



室長 木村 敦

経歴	1985年 多摩少年院法務教官 その後、少年院（有明、帯広、水府、喜連川及び久里浜）、保護観察所（浦和）、 法務省矯正局、矯正管区（大阪、札幌及び広島）等の勤務を経て、 2015年 法務省矯正局少年矯正課長 2018年 多摩少年院長 2020年 名古屋矯正管区長 2021年 現職、日本矯正教育学会会長
研究分野	矯正教育
論文著書	「少年院の教育課程をどう充実させていくか」（2003）刑政114（9） 「少年院における個別担任制の意義と課題」（2005）刑政116（5） 「内観指導」（2006）矯正教育の方法と展開 「新しい少年院法の下で矯正教育は今後いかにあるべきか」（2015）日本矯正教育学会五〇周年記念誌 「少年院のあゆみ—中庸のみち100年の概観—」（2023）矯正研究(6) ※共同執筆

上席研究員 菅野 哲也

経歴	1985年 秋田家庭裁判所調査官 1991年～2020年 法務技官(調査/鑑別担当)他 川越少年刑務所、少年鑑別所(長野、奈良、福井及び宇都宮) 矯正管区(東京、仙台)、法務省矯正局、外司法省(JICA派遣) 国連アジア極東犯罪防止研修所/ケア児童局(JICA派遣)を経て、 仙台少年鑑別所長 2021年～現職
研究分野	心理アセスメント、受刑者・非行少年処遇プログラム、非行・犯罪からの離脱
論文著書	英国における非行少年の調査票。(2003) 犯罪と非行 No.137 リハビリメントに関する基礎的研究。(2006)法務省矯正局 矯正研修所紀要 Serious and Violent Juvenile Offenders. (2008).The Indian journal of criminology and criminalistics. Vol.29 (2) 非行犯罪少年の処遇。(2011). Hoge, R. & Andreus, D.A. (翻訳/単著)金剛出版 我が国における国際受刑者移送の現況(2011). 刑事法ジャーナル.No.30. 受刑者の子どもに関する研究と実践の動向。(2022). 矯正研究. No. 5 少年院の指導現場における心理学・精神医学の役割の変遷。(2023). 矯正研究. No. 6



研究員紹介



研究員 小島 富美子

経歴	1991年 少年院法務教官 1996年 埼玉県庁入庁 児童相談所（児童福祉司、児童心理司）、福祉事務所（知的障害者福祉司、身体障害者福祉司、社会福祉主事）等で勤務。 2011年～ 専門学校、大学において、児童福祉、地域福祉、犯罪心理学等の科目を担当。 2017年～ 現職。社会福祉士、精神保健福祉士。
研究分野	矯正教育、児童福祉、障害者福祉
論文著書	<ul style="list-style-type: none">・触法少年に対する一時保護制度の活用について 江戸川学園人間科学研究所紀要 (28), 93-110, 2012・矯正職員の職務意識に関する研究 矯正研究 (1), 3-44, 2018・矯正施設と自助グループ等との連携に関する研究 矯正研究 (2), 1-135, 2019・構外作業における地域社会との関わりの歴史について 矯正研究 (4), 4-100, 2021・受刑者の子どもに対する加害者家族支援団体等による支援の現状と課題 矯正研究 (5), 117-172, 2022

特別研究員 仲野 由佳理

経歴	2011年3月 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 満期退学 2022年11月 博士（教育学）（日本大学） 2007年～ 看護学校、首都圏の大学を中心に「教育社会学」「生徒指導・進路指導論」「教職実践演習」「社会病理学」等の科目を担当。 2015年4月～2018年3月 日本学術振興会特別研究員（RPD） 現在 日本大学文理学部、日本女子大学、東京外国語大学、淑徳大学非常勤講師、公益財団法人矯正協会矯正研究室特別研究員（令和5年4月～）専門社会調査士
研究分野	教育社会学、矯正教育、犯罪社会学
論文著書	<ul style="list-style-type: none">・「女子少年院における少年の『変容』へのナラティブ・アプローチ—語りのリソースとプロットの変化に着目して」『犯罪社会学研究』33, pp. 138-156, 2008年・「少年院在院中の通信制高校への就学がもたらしたもの：高校通信制課程に関する歴史的検討」『刑政』131(8), pp.10-21, 2020年・『社会のなかの「少年院」—排除された子供たちを再び迎えるために』少年の社会復帰に関する研究会編、作品社、2021年（分担執筆）・『教育の〈自由と強制〉—矯正教育におけるナラティブ実践の機能に関する教育学的研究』ちとせプレス、2023年（単著）

